

811-8

俳諧資料カード

年代

又化八

編者
(筆者)

書名

士明七歌集

備考

(下垣内蔵)

吳市町賀北五丁目三十三番八号

下垣内和人

電話〇八三三十七一九八五四番

〒737



西止人東國一ちり一を致す千載集初孫
ありし國一上法一々のこらつて七通法野
にりあひたり初孫入一と女子をす小けや
披虎一と淨秋も初孫入一とわとつりたり
野之入一と入一と向をれいをれい
りりきとこ入一と要をしとそれ
ありしと子國一かくれたるとそ孫乃
乃事日つ友白國一かく孫其乃、少法あり十
とをを孫ていまそをれと年十、書書此者
とつらとそわとわ力つるををひんつんとそり
草移をるつりとそと遺稿とるすそれ

志をけつて二とを補ふやとつて人のきつて
東國一と孫をなまらんとして

享和二年春二月

う海

二日月集

白園撰

たきなりやききそのひさかた寺にたき
華経読とてくべきとて色無乃の
此寺に勉せし

青いさるたきくも何そとの月
かくハそらちあしれよりふふま坊本
しらくうにたきをゆくかりとてり月
塔をそん堂よりそれとてつとてり月
のつとてりて尾破はままはかり
裡はりまにくそひまにすまりの

こふ溪島乃左券の信算乃信算長
者よりあるとへの正人とそよりと廣ふ
と與一 小き佛坐せりしけりしつら
より庭中の松柏らんと海垣乃風
色りしをとりしつらまの西かき
き時そつらや

天明六年十月二日與り

二日月ふりし信より此より月 士朗
四時うきりしつられの松 暁臺
きくれは道中人のかきそりて 萬盛

高乃能と引うけきり 岳輅
空れすのきてきりき胡湖 岡毛
そつらやりに又ゆり着草 盛青
高乃能と引うけきり 地即
わけけりしつら陽乃 兼俊
高乃能と引うけきり 茶雷
高乃能の衣けりし 紀風
高乃能と引うけきり 少波
高乃能と引うけきり 白園
高乃能と引うけきり 羅城
高乃能と引うけきり 明

やけりてもとちやう坊さくさふや
りけり濃く(こむねききさき
菅公乃作とされしをうれい
と平きり物さきうい地のう
うす星とて(ちよふれたり
山城そくに活入りともさる
花面をとわれしを引すむらん
あゝ波とまき新草の中
名ける跡とびしをうに述ぶる
陣屋入り者六かきうくもの
又宮日の名はる色とあつし

青 萬 輪 毛 漢 郎 國 雷 鳳 汝 朗

のし引むる平なり 去
男山ふさふの小雨ちうし
四海らくわくをうらんれし
有のよは息けきたるつる酒
霞の能はけり稀くして
あゝ依きも風ありれ杖は存
男乃持師とて衣家とうし
くわし(と)羽織りたれとまき松
又をきけり(の)日あけ(り)
者(あ)る(と)と(ま)き(う)く(と)ま(き)の
凡雅とて(の)蛙(り)久(う)後

我 萬 輪 毛 青 郎 國 雷 鳳 汝 朗 漢

風やほしふそわらふとすすめり 也
こころしやまがもまはぬ 青の園 一之

かきあし 栞尾花

又ささきふそわらふとすすめり 栞尾花 草人
風乃尾花ささきあし 折ふそき 栞先
ひそきささきささき 栞尾花 蘭水
くれちふそきささきささき 栞 胡蝶
栞乃乃ひそきささきささき 許成

冬月 水鳥

そら雲乃ちきれやそらささき 李臺
ふおけ月うらみ人乃木橋 巴水
あしつらつねをきりそら月 葛齊
雲乃あしつらつねをきり 武思
栞乃あしつらつねをきり 啓甫
栞乃あしつらつねをきり 花叔

雲 五三三

梅ゆきや母ふらふらひそきささき 春曉
うらみそらささきささき 重厚
雲乃あしつらつねをきり 左琴

雪つむやうきう人よ竹の葉
人よほつゆきぬちり連戸にうた
掃一ちと雪うけそそ心たの陣
ゆきけぬすこふらまて入別れ
うさしちりあひ寄小葉やまき
そつわつや城下けつれの又板

蘭 匪
希言
南陽
庭甫
梅間
春曦

落景

氷

霜

冬景

戸にまきむらまうつてゆく信ふふ
夕景や屋まきこさつちりけし

窓巴
龜梁

小雲流乃ふたれおや
ふらけの氷よりゆく亭なれ
ゆりけろあまきうんお夜ハ
うりの戸に竹とまゆくひくひる
雁乃啼山く竹へうん冬こり

冥也
大種
了悠
長齊
魯隱

冬ふ立 枯野雜

みけそしやうらととてそも冬ふ立
雪れ身をたわゆ里乃りかまけうか
月も雪もこまこまこりしひのり山
き念佛うらこらふりりやを

青岡
きと女
枯石

孔子盗跖一塵埃

けつやあらん中れ中りきの水
鯁くろん人さくもすこまをねや

成美

寛政四十一月八日呉朽

冬れんまいつわとるも解りなり
旧へきりしとあ乃つら
やうふ麻乃わしのうとふ然に
皮茸うらふあけのひやくき
操りきふこ波りとわらう月の人
俗緒ほつらし 草鞋乃穂

白圖 岱青 士朗 徐英 大阜 昆明

見るとおぬりうらうへさうの路崎

聖六

うけけのうをら申つられのま門

圖

ふ禪一ふ益の史とふおます

青朝

親又をくくへく徳入り并

朝

書きあも二の所いこやたつれ

英

うらひそふ何くそ我こたふ

阜

すんこわこちりけまきそる展ゆ

明

けいそいこらうん守山の霧

六

ねきき小瓶の水とそらあり

圖

々々く乃身もけつり七十一

青

ちとりのう不改改めさうもひる

朗

砂く青くき四月乃雨
くし〜〜花のほろく花ます
近江小女乃ちれいまひさ
輪よと〜〜かひ〜〜うの
あふ〜〜のよと〜〜ら
う〜〜松〜〜き獅子以
三ノ板ほ〜〜舟脊履見る
むり〜〜い〜たつね〜あさん
現入はのあ〜〜折〜〜き
ほ〜〜きん老ま〜〜し〜木〜板
た〜〜い〜〜く〜ふ磁乃々くれ

美 阜 明 六 岡 青 朗 英 阜 明 一

竹たろふ〜〜もさろみ〜〜五月
酒〜〜む〜〜ちの地産〜〜り
水乃湯〜〜と〜〜ぬ〜〜る法井也
そねの干ほと〜〜る〜〜る人
燕〜〜り〜〜居〜〜ら〜〜り日〜〜り
かまに〜〜う〜〜ら〜〜る花〜〜り
きり〜〜た〜〜ま〜〜のま〜〜か〜〜れ〜〜と
余き元〜〜り〜〜彩霞樓上

岡 青 朗 英 阜 明 六 朗

号れ啼ゆつせりねりうせ
うらひをよまらうつし措りか
けたり雲々のそつらへくはをぬ
月よりもたれ中をりし一の心
まの目りむさきもまのわのちくハ
まもぬもさう月入夜うりか
夜をよけしこけさあ山家不
曙りそんしり上りもれもさ
月夜の夜りむらまき風情ハ
さくさくさくも静せしせ号れり
平れ角花よさうりもあられり

五雄
琴波 志列
柳菘
大魚
天老
吴来
物知
虎杖
騏六
方朔
如毛

くさくさくさくさくさくさく

くさくさくさくさくさくさく
波雪りあつさくさくさくさく
さくさくさくさくさくさくさく
一とせのさくさくさくさくさく
さくさくさくさくさくさくさく
日うさ乃若れさくさくさくさく
た二日乃さくさくさくさくさく
さくさくさくさくさくさくさく
さくさくさくさくさくさくさく

玉江
文雲
猿左
草龍
百席
徐英
素卿
樗堂
椿堂

くらふもよもひちかひちか
 かられ寄ふ何れもあつきの月
 長月のつらつらしくもよもひちか
 教梅ふ何れもあつきの月

葛井
 士峯
 柳涯
 卧英

雉子 暮春

けしきか
 射道
 噴之
 春唄
 吐文

東水
 射道
 噴之
 春唄
 吐文

双南
 墨山

雑

了圃
 嵐外
 可考
 泉阿
 定雅
 素外

了圃
 嵐外
 可考
 泉阿
 定雅
 素外

一音 推已
 玉之 一音
 沙隱 玉之
 白圓 沙隱
 兩曉 白圓
 祖傳 兩曉
 芳甲 祖傳
 鹿明 芳甲
 五明 鹿明
 二月乃... 男

時き 卯花

昆明 金鳳
 蘭二 金鳳
 松乾 蘭二
 白圓 松乾
 亞溪 白圓

けし 夕立 五月五日

よみ乃も極と持みらちもか
張布のへらやうかくれり又月ふ
五月るよもれれけのへらさよふ
三ヶけのほゆよりさる初月
ゆふふふりやある月夜う那
長
干
魚
五
素

岡子島 踏牛

ゆふふ 改巻

ひりてれいほさうけうんこり
おきのよきみくにういことり
人なりまふもらうさるれ踏牛
桐
六
芒
門

あさうほり二まにのほろかろり
はみりううの道さるかたより
まのういやはらさるせするを念の子
百書やゆき立さるねりうを
呂
入
自
斗
脛

短夜 夏月

そりの長へるりふもふりき
うう書やこり月さるも書のみ
蛙
仙
市

乙神前服

あけやすんををりきを服をのふ
二
無
祝

明やまきまのさしつれまに夜白イセ 宇六
 更スハ 十丈 宇古
 さらしスハ 月もいそとすまスハ 莫二
 ひろせ川ふき

けしきいそとすまれ鳴水鶴 青川

雑

夏の日もかきいよんをえつれつと
 竹乃るにこぬもかきいよんをえつれつと
 三つ葉のふ月とふしつと家ふ
下三 野老
下三 阿武
下三 山藤

さゆふにのけり

渡らうくつれとくくくくく花 下 文几
 空門のふ竹より中たれおとをを 下 笑山
 けつらうや伊勢の口植りよとを 下 五周
 ころつたや丁しるさう竹乃月 下 武原
 みけりやちやふふさうさうさ 下 廣葉
 ぬふねりひさうさ 下
 虫をねく麻り遠いふたひさう 下 さら茂

竹 碎 日

ころくすうくれふ白松を者乃を
 とそくやうやうさうさうに庫に

とけりしをてまへあつてやんばり
くつらり行ふやううさひつうを
年うまてりつてさるる間うぬ

行脚

方明
岳轄
玉屑

山傍幽翠

すくうたに秋やねむせ相火掃
老乃す心毛乃午の丸家うふ

桂五
騏六

夏月清霞

暮々きせりくことさううを
ひりあまのありおまのささま月

干當
椿堂

清節凌秋

二聲乃ゆへるをひりう桂うふ

青川

ほくろ彼を秋う子ひりうをりまをう

瑞馬

幽叢廻廻

八日月等ほくふうくれうり

成美

かへさうやげやあうううの山
鶴なり火や竹四五本に徑うし

芦丸
自樂

塵心友石

石苔乃毛に彼をけさるひうり
行こむくくれううの居所

南陽
猿左

湘中清心

るふきううさうひかりはま
すくううまあううううう

斗入
升六

清晨帶露

三日月さふ 露子乃 花のゆく 春の
さけり ありま 露子乃 花のゆく 春の
蕉雨 一草

清風高節

月うけふさり 節のゆく 春の
さけり ありま 露子乃 花のゆく 春の
了 素葉 了 國

露凝寒葉

さうも ちかき 寒葉の 叶と 露の
さけり ありま 露子乃 花のゆく 春の
騷道 可部里 双南

切雲空翠

おれのかみ 春のゆく 春の
五月のゆく 春のゆく 春の
其成 魯隱

綠蔭健備

さうも ちかき 寒葉の 叶と 露の
移竹半凋 柳花 樗堂

移竹半凋

さうも ちかき 寒葉の 叶と 露の
卓地 圃瑞 宇洋

恩枝空月

さうも ちかき 寒葉の 叶と 露の
白居易

くれやふりをとらたよをまひり

州竜

前面寒光

きりにやうつまほくき枯尾花
樹乃きれそく歌もせんしはく道
日乃きれそく歌もせんしはく道

友圃
長齊
景山

享和元秋七月廿五日興行

よさ鳥をとりひらけさ小庭うか
わらうきりりそむ秋乃日
月やぬあや今昔の友をん
常もあやそほり鳥しり

桂五
女汝
羅城
魚堂

よにたまふ又も持たさうつせ貝

松兄

そりり(連乃)うり。春風

大阜

そりれほりそりそりあそりそりそり

天老

日ちやとほくそりそり正月

玉江

吸りれふつそりそりそりそり

五雄

雪もやあそりそりそりそり

葛井

張りそりそり細のそりそりそり

福良

ちりお田ハ最乃そりそりそり

荒堂

ちりお衣ハ最乃そりそりそり

岳路

ちりおき居園ハ最乃そりそり

蘭厓

ちりおもじや年れそりそりそり

方明

きらうくたるる月乃ちりり明
 鏡より尾よ歳の移とちを
 中ころころしや也也乃ち子 松
 僧服の丈にそふちけち強ふ
 傘さしうける雨れさりし
 孩童に行とうしし松敷垣
 月うづ度ふかづる暮すの葉
 白足袋のうさうさうさめれ水
 花色をさうさうと揺ふれさる
 松尾より一舟田のうさうさ
 さうれびりりにかえる五位堂

霜居 東水 松間 士朗 五 汝 兄 堂 老 紅 雄

かくれあよ夕飯をたいたるりそを
 ひさすしれ程度とう旅 月
 みし馬のほゆる井井尾花で
 芝蓉のまをうけを所車
 我肩より白くまおふつれさる
 膝ふもさうさうさうさうさ
 ちりびりりあ無事の結ぶあま
 登りやうさうさうさうさ
 まゆのちまきけりりたむ
 まゆのちまきけりりたむ

井 良 堂 路 厓 明 居 水 間 城

初穂 星夕 盆

きんれい ねんまのうら ねんまのうら
ひつやとん ねんまのうら ねんまのうら
ねんまのうら ねんまのうら ねんまのうら
ねんまのうら ねんまのうら ねんまのうら
ねんまのうら ねんまのうら ねんまのうら
ねんまのうら ねんまのうら ねんまのうら
ねんまのうら ねんまのうら ねんまのうら
ねんまのうら ねんまのうら ねんまのうら

越 巢
滄 淀
可 郡 里
壺 伯
白 岡
紀 恩
つ 南
秋 園

釣虫 きんま

つばねの世とま ねんまのうら
ねんまのうら ねんまのうら ねんまのうら
ねんまのうら ねんまのうら ねんまのうら
ねんまのうら ねんまのうら ねんまのうら
ねんまのうら ねんまのうら ねんまのうら
ねんまのうら ねんまのうら ねんまのうら
ねんまのうら ねんまのうら ねんまのうら
ねんまのうら ねんまのうら ねんまのうら

士 朗
自 染
大 坂
尺 艾
玉 湖
蛙 村
ゆくと女

蘭菊 萩

きんれい ねんまのうら ねんまのうら
ねんまのうら ねんまのうら ねんまのうら
ねんまのうら ねんまのうら ねんまのうら
ねんまのうら ねんまのうら ねんまのうら
ねんまのうら ねんまのうら ねんまのうら
ねんまのうら ねんまのうら ねんまのうら
ねんまのうら ねんまのうら ねんまのうら
ねんまのうら ねんまのうら ねんまのうら

月 居

われあふるねらむらこねり
 祇徳 ニト
 新りまふれも月ううくたき
 琴州 ニツ
 又く居るは海しそらぬ夜の花
 虎堂
 ちきよのひ後ようくく好そき
 李句
 れはけいせいきたのさう
 高砂 高シ
 とのまのひり形なりねれま
 卓池
 仲間と沈ぬとかり露のふな
 常襟
 小鳥しらふしやとととりたふ麻の
 夕のさうけしむこししたまこ
 らう格ふつきすふりけさま
 男う肩にさうかこ袖ふるもかうけ
 花乃くくは乾うみ唐のさくさ
 羅城

秋風

秋風
 秋風
 秋風

ありやさるうなてもあきれ
 升六
 人乃やみ人のそすも好の風
 喜年
 秋うせのうひはひし草乃上
 山草 上穂
 あきとせ乃うきまうさ月の透りね
 五峯
 あれ、羽をささこたあね秋の風
 嵐素
 庭をけく挿けく飾し秋乃言
 空丸
 ちくこれ乃けしきり知れ世うね
 瑞馬
 凡の尾花さう社をけて吹よりぬ
 子夏
 處ありけきまらりさけおのぬ
 夕は

きりくは

秋陰

霧

きりくは

音杖

長乃のいびつてくろんきりくは

如京

胡きりふつふんりくはすうまふつふ

こき女

三井さ乃かのみすうかち杖乃杖

祐吉

くれ舟のきまそし杖やとむん

福良

仲くへせ衣ふくむ杖乃杖

白辰

うれり集ふりわくくは

とらけぬも不思議なりきりくは

三

雜

きりくはすうまふつふんりくは

乙二

きりくは杖乃口ふ味多れす

一沖

八路乃柄くく固くうまねじ

文飛

くまそく味々の杖の山くくす

瓜坊

梅妻や味いくくもやあし

葛三

きりくはなるあもそく杖乃杖

圃暁

ニ子乃口くあそ

かくれきき本様は杖也くくす

梅園

杖乃口を抱てくくや杖乃杖

一奴庵

杖乃口やけ田の上くく新けり

夏々

くくくくくく心そりれあきり山

硯静

月

名月やけりし乃そく門ゆ之
 舟のひり家入ひしまな松乃月
 中についで度う月のゆく所か
 月そしや院遊けりしを辨ひ多
 のけり程をれり月乃新しき
 こ流あふれねけりて乃の月
 孤館の月更しにいつき
 後いふ子しに竹の松の月

都貢 魚村 壽松 周瑞 魯堂 宇曲 竹有 方明 少比補

享和ニ改春二月

手

のきこむるのしきき花ぬし
甲州入舟のひきつさうやむ
人毎く世なり事と持るなり
何とんよ志ほけいし
酒くさぬ馬惚もり紐とメ白く
あゝ見一折よゆくしもの
らりしときて啼あう筑のよ
こらうまきまらうと井の侍
月あつき軍入中のたつたれ
振はり味の物あう秋風
晴吹み岩かきりし乃芒くし

湖川
石老
野雀
大蘇
五道
石老
野雀
大蘇
五道
湖川
石老
野雀
大蘇
五道

板す乃らうぬふれとくしき
無きくぬ人うと中よとれり
とりし児乃とて葉宿
華うなむらうとくし
竹保路く明五二十八日

五道
石老
野雀
大蘇
湖川
石老
野雀
大蘇
五道

菴犬集卷之二

百韻

松高一宅に竹ぬきうてり
小庵と踏乃、おそく十月
誓の子れひり起すも晴く
酒りあささし枝りまをつる
騰うけふそるけし山とちうて
真着乃、花とくけりて松風
蝉きつりて二りり月れあ
角刀の陣沙佐部をりてを
らほくと松濤とする松吟浪

跡崔
松兄
真堂
高松
士明
蘭厓
佳五
梅同
露城

西う雲乃元れ千、咲こ
振乃あひあり、えとう言ひて
鳥とみく、寺に松松焚
暮きや、雙六うら、二六へ
古路も、く雪まうけとる
魚乃つくま、くをくも水まで
大うめを、ぬ履沙の松屋
月見よとあさ、うし山の上
雁り啼、くして、とんぬれ
くあ、くして、く、く、く
く、く、く、く、く、く、く、く

妻井
嵐堂
天老
ウ汝
大阜
方明
許雅
松兄
真堂
無輪
士朗

菴乃犬

四

五里馬と伝ふも字義の反は
 名と名床乃り叶れ 白馬
 芥薺夕とて正氣色とて
 丸く吹く正雲能春うを
 ば分ふも之は實に盛れ年のよ
 ようく三井 橋よよて行く
 是れ乃月長と名と名も之
 屋との杉と霧うをふれ
 けししに橋野人のゆふりて
 空もやうき杉井乃りて
 胡桃梳て杉そこの袂はよる

大獲 五通 山風 石老 竹有 赤床 東水 士於 桂五 岳松 魚望

ちけりんとほつて
 山を花うてけしあもる葉見夷
 意とやうよ 走れ 山 島
 あつとて雪はうて 橋の妻
 乃乃上鳥よみふ終日
 辛峠の杉りさうりれさうり
 うねれ中うりてさうりて
 一うり 鹿へ月とやうて
 名井れねほよよるよの者
 葉ひしとさうりて
 龍尾のらんとて圓れとて隅

蘭 野 又 羅 梅 石 松 霜 為 方 大
 崖 雀 老 城 間 老 兄 床 井 明 卓

うんくろを長頭目の當りぢ
石ふりつせし濡りし干
子にとれわかきまはれ花長を
侍嫌そこのか加茂の言人
牧方成ういふまはり御礼
風をうらふふくくれい
焼餅の餅れ字にくもけて
母とふさすしや懐く親家
小娘よ人のわがれつりり
早も高より空を走りぬ雲
撲ひくを桂入 薙も恨しく

麻堂
左卷
少仕
士朗
五雄
大蔚
東
湯
五道
竹
岳

頂根まで焚きれま乃夜
月鏡し花の栞をり付て
法師のさうすう維子は一孝
信光乃乙一落き習り完
ひささ丸彦ふ人あひそり
五月雨もゆきて甲智丸桂屋
百合小くはあ興次亭う袖
目にとりて行々ふまはれ尋り
泣くも明の星峰一乃園
うらなと持統電と傍り也
歎しむるりもわが言え

桂堂
又阜
桂五
松兄
少仕
侍堂
濯城
桂五
粟屋
士朗

馬古より一板くわて
折戸公ひく水仙乃月
日教ゆる布面れおの末枯
もれもすれもる谷川 音
法橋の字もま白の名もて
山雲にひそる 三更乃 兩
冠乃知る城れももま
けりもししうもる月の末
空も鳥のちもふもる
漁女の舟言 漁してん
初もきまれ且乃よりるや

桑屋 魚堂 梅間 士朗 天む 松兄 真堂 天老 羅城 方明 大阜

新中れをにやうの節に奕
なつに遠山松 草乃庵
瓢を提もるもくもる

松松 大松 梅間

菴大集 卷之三

春

長湖へそくそ移りあはるるふ

士朗

やうしうふ花守りまじく移り

魚堂

人のまをそくすまじくそくそ

成城

旅人くそくそくそくそくそく

卓地

くそくそく

わのりくそくそくそくそくそく

少女

菴され乃かきわくたう山路うね

大阜

ふさくそくそくそくそくそく

聖雀

ふらくそくそくそくそくそく

五道

た乃ふそくそく高くえくそく

左雀

うそくそくそくそくそくそく

野秀

たそくそくそくそくそくそく

花下飲

々くそくそくそくそくそく

多人

又偃川すのそくそくそくそく

月辰

あはくそくそくそくそくそく

亀梁

くれそくそくそくそくそく

湖風

花そくそくそくそくそく

華涯

くそくそく

そくそくそくそくそくそく

宇洋

花乃心くも湯と塗まり
砂文
吾松又てわう噴まの小家
養乳
葎入屋へ鄰よりもまぐり
干當
呼漬れはふ人そしるるも
吟斗

小窓れう冬上腰つてまき
郭ふに吟みかして

うそむしこふ葉れたるより
景屋
葉れたのまぐりてそるお明ふ
木容
そのおまはまき海を在所う柳
雨露
葉入り冬のみにつくぬれやうま
壽松
うねるのよとわきし去賀れ里
法樹

暖月つらりうたれぬ杉村らよま
とてきふ杉のまはれりぬれ
乃月このまき葉あり霜月の
あつしつるさしやうてまこと
さうしつる

世見しれは薺うつる霜月と術
士朗

みやこふははりて

大佛の面をそるまはれまはるゆ
全

うそむしこふ葉れたるより
真義

号やくししぬいづるまはれと
五喬

四上

うそむしこふ葉れたるより
大蘆

うくしよの中乃ゆきやいりーい 五来

梅の香さそよ
風乃やうりてきり

鶯乃折戸に雪れ降るりそ
うくしよやうりてきり
雪れまよふ先はこころ小雪うふ
まよふやふ乃同よきゆりはれり
五更月の山よりまよふ春乃あ
そよふれあまよふゆきは生か
まよれりの日へうりてきり春の月
片甲やそる乃月さよきそ来 庭
自察
免門
可考
石光
乙二
天光
雲帯
曲登

こゝの月まよふまらうりーい
さしやわつさよき風のさよき
ぶきそる水りてまよふれり
春風やまよれり先へ陽田川
湖汎
方明
桂五
丈龙

六条乃折登さよきひそり
迂佛の折他ほはる乃さね
みよつさよき月れさよき
さよきおめはつさよき西言け
まよふさよきりてきりまよふ
記さよき一さよき併まよふ

中乃さよきまよふさよき
花は山
岳輅
春城

伊勢浦の中津乃中よりまゝ乃
くろ乃海人よまゝとしそく
湯まゝくおのらう、小舟つれ
早瀬や花つきわつ乃あつ津
鳥海や晴しりふに何もこゝ

佳長
園曉
石老
野雀
尺艾

頃下乃浦より

つゝゝりまゝまゝつれまゝ

大蕨

つゝゝりやおのらうとしそく

五雄

きゝゝりまゝまゝつれまゝ

栗大

つゝゝりまゝまゝつれまゝ

乃乃まゝまゝつれまゝ

鯉魚もやうてつれまゝつれまゝ
つれまゝつれまゝつれまゝ
まゝ乃まゝ乃まゝ乃まゝ乃

雲片
秋園
希言

夢想

つれまゝつれまゝつれまゝ

野雀

かゝまゝつれまゝつれまゝ

もやゝり月ハさくしの花

とく乃つれまゝ

まゝまゝつれまゝ

まゝまゝつれまゝつれまゝ
つれまゝつれまゝつれまゝ

九峯
魯隱

由くまれやまてこちと小世ふ
 夕くれとむらじしてまうり
 多神乃あそねも物こつし
 青柳ふれ宮れ海う竹ふてり
 心ゆそつ柳はゆく清し
 大室乃まふまきれぬ柳うふ
 仍人の可らむふれやふたぬ
 柳先着し是うう行珠乃春
 月うそそはさ柳の本れふ
 乙ら月乃こも白し柳のふ
 山てめ人うそそはさ柳のふ

龍雀
 魯堂
 黄山
 雄御
 周瑞
 芳之
 松兄
 椿堂
 推已
 野雀
 虎堂

人のあつはる梅さう
 白梅乃七葉こころ月おふ
 枝とふ人へうそれうそめ花

是寺よし

空きいそい寺そり梅乃花
 乙らうそそはさ梅れふ

葛井
 許凡
 大蘇
 梅間
 少女

月はけつて也うりれし枯宇
うりきや花明てまゆけきん
浙夏へふもふーあり 蜀魂
ほしきれ啼くわりのうらま
不ぬ帰四月八日ひきのうと
み月にはそとそふいつりふきん

騏六
野雀
桂五
嵐外
孔阜
硯都

作世りまき國々唐を白波の岸
と名つけて松を牙に破くと
通せんともさうしらは門の
はしらうしきつ

閑さそ誰をも回るとはきん
けくきれ秘術なり誘へんも撞
ゆけしあふ砂ふもさうの都ん
我らの神よ供ははきん
すれ花のりつとせとふちぬ
旅人乃空の心をけりうきん
村翁さつーのき乃世界うふ
翁乃麻葉のそけに鹿うん
かへきくえれい又の精舟ん
よふり乃あし翁はうんやし
傘はくふやうりな乃月

羅城
瓦雀
吐牛
魚堂
加津
文松
大阜
壺伯
夏二
李園
卓池

月夜を人なりそふりまの月
 こそしののくに遊さむくたり
 こそ風ふしとてくくくくを
 ねくけを掃ふの涼き風をま
 月さ日もすきね乃琳くふ
 草本よら入部く
 ちかひくそりてすくふ年あふ
 冷くそ風はせりあう柳
 五十鈴門く
 かさしたるせはすしをれ五十鈴川
 すじさや月と又ささる竹乃く

里松
 窓巴
 大蓮
 葛井
 梅回
 蕉雨
 ゆを
 野雀
 全

ひよしくく霧はくすつん五月あ
 五月あうやちを宿けく霧うふ
 白崎の山まそひやく月か
 くるるりそふれのとてそれた
 初うさる寝心ちうふけさるうふ
 陣のやちのれすりきき小石川
 ちけちをそれをとち竹のちあひ
 くら影くそ疾足ししる菴うぬ
 人なりあして下ねくこうそそふ

岳輪
 士朗
 景山
 可都里
 武法
 存古
 竹有
 石老
 左琴

所月のくくう表老
 ちうくくくく

うらひさしむをたまは日了ぬ

朱雀

あつ山

いさねさき水乃物しある歳り不
 思なき日やそりく神人足乃砂
 十日さつく日さつひさきま
 白ゆこれゆゆぬ乃さつひさ
 三月月とさつふ植る山田うふ
 道とるに跡もあしわろ田植うぬ
 ゆいさつうそくいひ門啼ひささき
 見く居るといし月乃かきんさ
 李凡とさきし里れ清水う那

方明
 松兄
 青川
 天老
 豊岡
 椿坐
 蘭屋
 喜年
 素袋

ねく乃切やそくれい又掛

全

あつしき園庭つたりそりさつ

文兆

整養亭

亮角しそりふひさくやけ花
 笑さつて目さつしむ雲雲の白さ
 うれささつさつさつさつさつ
 近とれそりさつさつさつ

五道
 不明
 士朗
 関叟

初月や程くまし山乃飛
こり月乃字よつて山家うの
月草は月にほのめく小あふ
益の月部もさうて一字一鳥
あつてもくれひもさうて益月
月あねのねまあねの月夜ふ
さゆし乃名もあつてあつて月
わんや草履のそれあつてあつて月
あつてあつてあつてあつて月

吐文 岷山 楚雀 全 石老 桂五 椿坐 沙を 蛙聞

て行てさうた月乃唐ふ柳
まよの月あつてあつてあつて月
まかほりこ山乃さうてあつて月
山よさゆのあつてあつてあつて月
ま柏月を先見うてあつてあつて月
あつてあつてあつてあつてあつて月
あつてあつてあつてあつてあつて月
あつてあつてあつてあつてあつて月
あつてあつてあつてあつてあつて月

湖凡 仙市 石花 斗入 五道 巨鶴 六車 李臺 蜀國 大阜

これにて乃さうてあつてあつてあつて月

蛙甲亭

舊乃の吟りけみりまよ草花糸
日れくわつ跡う芒乃けつ進うね

士胡
大蘇

善哉
くわつ更くわつ入

二夜やまきらくりしりるままふ

方明

世義寺

とまふちのまを吹らく女の風
ふれうせりかまをとり草花糸
松風くしん乃あはそ小まうふ
三夜まきらくりしりるままふ

尾城
一之
索榮
加津

松景正松承韻響

入るふふふれ下そり松乃風
松乃中竹ふつりてふ山鳥
木を乃耳よよとけち中松の風
松承の存よ候く月あふ

五雄
葵茂
ゆき
八峯

題美人圖

夜そ花の月さる水乃けりりか
月れあふくは花さる花うま

奥堂
大漢

述懐

花うきささくはらわたりつ
宵く一月もあつてをさるる

慈雨
斗野

こころの中をのりゆく月と雪
まじりと目と雪乃積日くも
新うみけのらあてり雪乃松
まればとゆはよするま月うき
子代う誇ふて

清ひつち移しきうきと雪乃山

對伊吹山

この門ふささうまれをし雪乃峰
ふつまきまつとてまへ共う柳
雪乃音まき花あうり灯をき
門支の祖足り下戸をり袖時あ

夜兔
六車
元雀

李甚

湖風
杉紙
成美
竹有

ちりてはくちと信智小家うあ
菴乃夜や南月形ふ北くれ

岐岨道中

時雨てい月くくれていもう雪

幻住庵にて

ちくちくや三井寺は清浄田は積
ゆるふも土砂くまぬの田んか
やううか月けさうり時ぬけ
きけりりり時ぬきまき小田は積
山かや七日まきく雪乃亭

不做冥りて

五道
蕉雨
野雀

魂静
少汝
桐栖
汝景
泉城

あつちの舟ふたふたの音なり
風乃うさうひやくまふ家
木枝の雪れ二まやま月
こうの藪よ百舌啼夕日丸
一とつらふもあま

木枝の白雪にあまふ福なり
月あそり行け枝ふ啼千鳥
雷け枝波とあそり鳴らり
夜泊
おろつき一り頃すよ啼るも
それいそく人もをれを啼の鴨

水鳥やとらありても啼りぬ
ふもけ夕吹けけ小家うか
月にをれの鴨は来てる田
すくくも風も枯やうう柳
舟小やうも六尾花の枝さう
引くりぬきまけ枝葉ふふ
かすもく人のうてわら柳う柳
宴會
あつちの音まふあまの音まき
傾城の庭うりらうりはらたえ
人らよのそけいさまる新鼓

五道
里桐
雨局

大阜
九雀
天老
木容
雨曉

五道
梁基
右礎
少色
李園
樗堂
竹外

士朗
岷屋
巨峰

ひくはあそりもせよ山家なふ 士朗
年と心身とも一日入り曆うなよ 山阜
蝶拂と世話して鳴鳥う那 景左

享和三変集

野雀同
五道輯
久蘇

文化八年辛未秋

枇杷園門人

五彩堂藏版

三ヶ月
巻文集

三千円

兵庫 大坂 京 江戸

新居卯三郎
名田徳仙助
芳田宗三郎
鹿沼忠兵衛
菊倉太吉郎
野内徳吉郎
丸上源利八
大和田忠助

